

## 平成29年度第1回放送番組審議会 議事録

開催日時 平成29年9月5日(火) 14時から15時20分  
開催場所 三次市防災センター 1階会議室  
出席者委員 添田龍彦・重信富子・千崎由博・宗清弘樹・湯藤浩康・山岡幸子・石田睦子  
岸田立  
欠席者委員 落田正弘・前田茂・岩崎積  
説明員 (株)三次ケーブルビジョン  
田坂代表取締役社長・新宅専務取締役・林取締役  
幸住管理課長・坪井営業技術課長・津田制作課長・野田企画課長  
向井制作課長補佐

- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。行政関係機関及び住民自治組織団体代表委員の交替を報告。新委員に対して、代表取締役社長が放送番組審議会委員の委嘱状を交付、続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 会長挨拶 添田会長が挨拶を行ない、今回の審議内容のDVDは少々時間の長いものであったが、委員の皆さんの様々な意見を頂戴したいと述べた。
- 3 審 議 審議に先立ち、番組を担当した制作課長補佐が『伝承としての稲生物怪録～江戸三次の怪異談』について企画目的及び番組概要等を説明する。

会長(司会) 番組内容について、忌憚のない意見を願います。

委 員 最近、妖怪博物館建設計画の記事を読んだり、きりりホールで上演されたオペラを観たり関心は持っていたが、よくわからない点が多かった。審議対象のDVDは長かったが、妖怪研究家の湯本豪一さんや、安田女子大学の杉本先生のお話、比熊山や、稲生家のお墓がある広島のお寺など実在するものの紹介が色々されていて、私には大変わかりやすかった。

今度は青陵高校の生徒が取り組んでいる妖怪キャラクターとか、布野町の妖怪落語などを取り上げて、もっと市民に興味を持ってもらえるような、よりわかりやすいものを制作していただきたい。

委 員 第一に、内容がとてもわかりやすかった。資料説明が、統一感のある並べ方で映されていて、どんどん引き込まれるような流れで作られていた。

第二に、資料の絵や映像がとてもきれいだった。第三にナレーションの声が聞きやすく、気持ちの良いものだった。

委員 非常に学術的な内容だった。昔は、元々不思議な世界というものが沢山あったと思う。当時の時代背景をベースに語られたら、もっと膨らんで良かったと思う。資料映像は大変楽しんで見ることができた。

委員 構成が素晴らしく、映像がとてもきれいだっただ。外部のスタッフが制作されたのかと思っていたが、先程の社員さんの苦労話を聞いて、成程と思った。子どもが安田女子大出身で、卒業の際に県北各地の祇園祭について調査研究したことがあったので、興味を持っていたが、祇園祭や神楽とも関係があることがわかった。

稲生家が実在していたと説明があったので、三次の電話帳で調べてみたが、三次には現在、稲生姓はなく、不思議な気がした。

委員 番組制作の企画が持ちあがって、DVDの完成まで約10ヶ月かかった。先程の説明以上に、制作中には大変な苦労があったと思う。『稲生物怪録』というディープなテーマであったが、この物語が伝承されていった過程が、歴史に基づいて正確にわかり易く紹介されていた。商工会議所が希望していた通り、市内中高生の学習教材に役立つ内容にさせていただいて、大変感謝している。

委員 三次に住んでいるが、この物語についてよく知らなかったもので、深い内容のものをを見せてもらって、よくわかった。ただ、一般視聴者向きではないので、視聴率を考えたら、番組的にはどうかと思う。

制作者から説明があったように、完全な資料用映像として大切にしていけるべき内容であると思う。『稲生物怪録』は三次だけでなく全国的にも関心の高いものであるので、三次発祥のこの物語を大切にしていけるべきである。これをしっかり活用するとともに、もっと掘り下げたものも作ってほしい。三次には、ほかにも歴史的に貴重な文化財が沢山あると思うので、それらも資料映像として残していけば、三次の歴史シリーズとして将来に繋がっていくものになると思う。

委員 三次市の貴重な歴史的文化的文化財について、資料を元に非常に詳しく関わって、こういう形で残していただいたことに感謝したい。今回、2回も見せてもらい、上っ面しかわからなかったことが、そういうことだったのかと正確に深く知ることができた。三次ケーブルビジョンには、こうしたことを伝えていく役目があると思う。

この番組内容は、中高生には理解できると思うが、小学生には少し難しいと思う。小学生にもこの物語を正確に知ってもらいたいので、小学生向きのものも今後は制作してもらいたい。

会長（司会） 歴史的背景の話が出たが、その時代その時代の変遷を経て今日に至っている状況が、詳しく紹介されていた点が良かったと思う。今でも広島神社やお寺で貴重なものとして祀られているし、これだけ有名な物語が、「いつ」「誰が」

作ったものか分からないこと自体が、とても不思議な気がする。日本中にこの物語を研究されている人が沢山いらっしゃるのに、わからないということが、魅力的なものに感じさせるのではないだろうか。

委員 小学生向けのものを作ってほしいという意見が出たが、小学生と言えども、見くびってはいけないと思う。まず、これを見せてはどうか。その中から率直な意見が出ると思う。そうした声を吸い上げて、次の小学生向けの番組を作ったら良いのではと思う。

委員 私の地域では、小学生向けに地区のカップ伝説を題材にした紙芝居を作っている。10年位前から、総合的な学習で地域の歴史を知ろうと、近くの山へ登って、歴史探訪の学習をしている。岩屋寺から比叡尾山へ登ったりする。現地へ行くと子どもたちの見方も感動も違うものになる。そうした体験が刷り込まれて、ふるさとの記憶になっていくと思う。もう少し、柔らかい表現ができれば、ふるさと三次の素晴らしさを印象付けるものになると思う。

委員 建設予定の妖怪博物館について、賛否両論騒がしくなっているが、今回のDVDを活用して、より市民に知ってもらうことができれば良いのではと思う。

会長（司会） 委員の皆さんの意見にもあったように、この番組DVDを見て、よく知らなかったことが、詳しく知ることが出来たことは素晴らしいことだと思う。「物の怪」に魅力を感じる人が増えてくるのではないだろうか。

委員 以前、書道パフォーマンスのDVDを、女性会の皆さんにも見てもらって、「元気が出た」とか良い感想をもらった。『稲生物怪録』についても、まだ知らない人が多いと思うので、もっと多くの人に見てもらったら、興味を持つ人が増えるのではないか。

委員 制作側として、ここが不十分だった、もっとこうしたかったということがあれば聞かせてほしい。

社側 個人的な感想として、当初この物語のどこが面白いのかと思った。全国各地に同様の妖怪物語があるにも関わらず、三次の物語の何が特別なのか、面白いのかがわからなかった。学者の先生は、学術的な事実を正確に伝えることに拘りがあって、私の知っているものとの違いに戸惑った。

誰にこれを伝えたいかが、問題だと思った。委員の皆さんからも出たように小学生には少し難しい内容だと思う。教育委員会は、この物語のあらすじだけを見せてやりたいと思われていた。加えて、なぜこの物語が三次に残っているのか、なぜ作者がわからないのかといった疑問に、答えるくらいの長さのものを大雑把に見せた方が、一般の人が興味を持ちやすいし、教材としても使いやすいと思う。

今回の番組のように、全てを集約した内容が良いとは限らない。伝える相手

によって、使い分けるべきだと思った。一番の目的は、子ども達に伝えたいということだった。しかし作る側は、正確に伝えたいという思いがあった。今回作ったものを細分化して、パート、パートで設問を作って、それに答える形で制作しても良いのではないかと思う。その意味では、今回まとめたこと自体は良かったと思う。ただ、中身の多い内容を伝えたやり方に、少し課題が残ったように思う。

社 側 今回の企画で力を入れた点は、研究の成果が本にはなっているが、本ではわからないことを映像化して見せるということだった。時代が変化する中で、三次の市民には、三次の物怪録が事実のものとしてではなく、講談の世界から作られてきたものが身近な話として伝わっている。しかしそれは研究者の目線からすると、事実とは全然違うものであった。その事実のところを DVD に残そうというのが今回の目的だった。始めから、子ども達の興味や関心をひくような内容とすることを目的としていないことをご理解いただきたい。

伝承として、正しいものを残すことが第一の目的だったので、事実に基づいた成果をわかりやすく映像化することに重点を置いた。その手法として、出来るだけ資料を取り寄せて映像化する取り組みをした。今後、1つ1つのパートの中でわかりやすく、面白く伝えることも考えていく。もし、妖怪博物館が建設されれば、映像コーナーを設けたり、紹介番組を放送したりして、より多くのリピーターを取り込む役割を担うこともできると思う。

委 員 (DVD の中で) お墓に日時が刻んであったが、これは事実ではないという説明がされていた。そういうもの(史跡)が残っていると、事実だと思い込んでしまうが、そうではないこともある。話を基に作られた物も有るんだ、ということが初めてわかった。

会長(司会) (稲生物怪録が) 絵本や絵巻になったり、講談になったりして、それぞれの立場でより面白く伝えていきたいと、変遷してきたのだと思う。

社 側 この三次に、全国に伝わる物怪物語に登場する人物が実在していたということは、三次市民にとっての誇りであり、それを活用して三次の良さを発信し地域産業のさらなる発展に結びつけていこうと、商工会議所が創立 70 周年を記念してこの特別番組制作を企画された。

委 員 「稲生物怪録」は、三次に住んでいるので知っているが、市外の人には知らないと思う。今回の DVD 制作で、映像として残すことができるといいことだと思う。ただ、今後三次に来られた方々へのおもてなしの時には、42 分の長いものではなく、ダイジェスト版の方がよりわかりやすいと思う。更にアニメなら、子ども向けに面白く見れるだろう。

会長(司会) 番組の最後に、今回の番組制作について、3つの言葉でまとめてあり、意気込みが窺えた。この物語を三次だけのものにするのではなく、もっと広く外に

向けて PR できる方法を考えていくべきではないだろうか。この武勇伝をしっ  
かり PR して、もっと三次が有名になって活性化することが大切だと思う。

委員 素朴な疑問として、番組の中で紹介されていた資料について、どこに所蔵さ  
れているのだろうと思ったものがある。それは、明らかにできないのらう  
か。

社側 今回の取材で紹介した資料の所蔵元は、はっきりしている。しかし、このた  
び湯本氏から多数の資料を三次市が寄贈されたように、資料の管理者は移動し  
ていくので、番組の中では所蔵元を明確には表現しなかった。

委員 実在した人物（稲生平太郎）の生涯について、知りたいと思った。いつかの  
時点で、生涯について取り上げたものを制作してもらえたらいいなあと感じ  
た。

社側 1つ1つのパーツを掘り下げて番組を作れば、違う意味で、もっと興味を持  
ってもらえるだろうと思う。次のテーマとして、そういったパーツを取り上げ  
ていけば、三次の歴史を残すという意味でも良いことだと思う。

委員 今回の番組は、最初にも言ったように、一般視聴者向きではなく、資料用映  
像としては良いものが出来上がったと思う。一回で終わるのではなく、シリー  
ズとして制作していただけたらと思う。

委員 三次町だけでなく、市内の歴史的文化的文化財や物語について資料映像として残し  
てもらったら、楽しいものができると思う。こうした資料映像を制作する技術  
があるのだから、ぜひお願いしたい。期待している。

会長（司会） 皆さんの意見が出揃ったようだ。本日も貴重なご意見をいただき、感謝す  
る。これで放送番組審議会を終了する。

4 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、  
この審議会の模様を放送し、議事録を HP に掲載することを伝え、閉会した。